

秋田県内中小企業景況調査結果

(2021年10～12月期)

秋田県商工会議所連合会

〈内容〉

- I. 全産業の項目別DI値
- II. 産業別DI値
- III. 地域別DI値
- IV. 産業別設備投資
- V. 地域別設備投資
- VI. 経営上の問題点
- VII～XI. 付帯調査
- XII. 総括表

※ 景気判断・DI値とは、「増加」・「好転」・「過剰」したとする企業割合から「減少」・「悪化」・「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。
(▲: マイナス)

〈参考〉県内景況調査に対する各企業のコメント 一覧

〈回収状況〉

業種	対象企業数	有効回答企業数
建設業	40	32 (80.0%)
製造業	40	29 (72.5%)
卸売業	40	32 (80.0%)
小売業	40	32 (80.0%)
サービス業	40	32 (80.0%)
合計	200	157 (78.5%)

地域	対象企業数	有効回答企業数
県北	50	33 (66.0%)
県央	75	66 (88.0%)
県南	75	58 (77.3%)

I. 全産業の項目別DI値

1. 業況

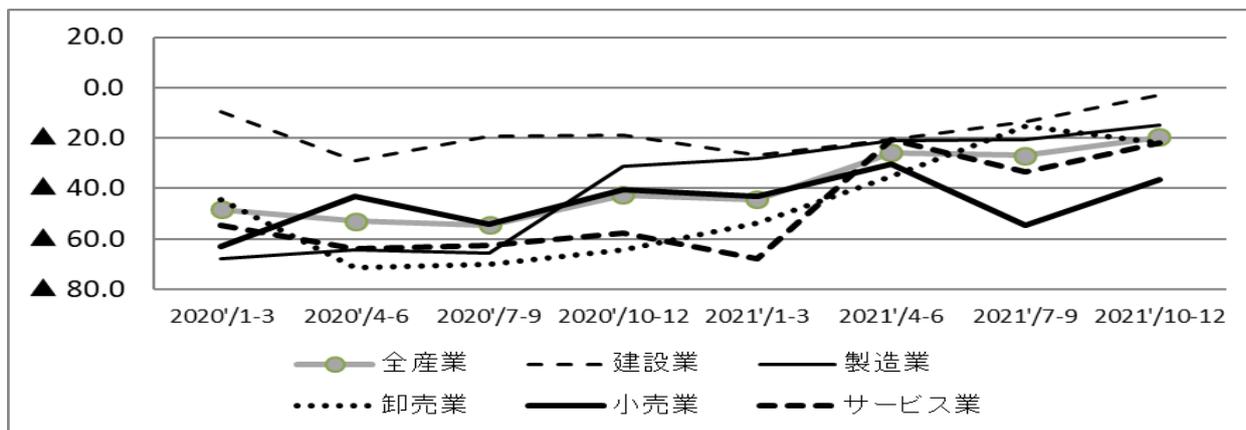
今期(10~12月)の業況DI値は、全産業で▲19.6と前期比で改善した。

産業別では、小売業、サービス業、建設業、製造業が改善した。特に小売業はプラス18.0ポイントと大幅に改善した。一方、卸売業は悪化した。

来期の見通し(1~3月)は、全産業で▲32.5と今期比で悪化を見通している。

産業別では、すべての業種で悪化を見通している。特に建設業はマイナス21.9ポイントの大幅な悪化を見通している。

	前期(7-9月)		(C)	今期(10-12月)		
	(A)	来期見通 (10~12月) (B)		前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 27.0	▲ 29.8	▲ 19.6	7.4	▲ 32.5	-12.9
建設業	▲ 13.5	▲ 28.5	▲ 3.1	10.4	▲ 25.0	-21.9
製造業	▲ 20.6	▲ 3.0	▲ 14.8	5.8	▲ 29.6	-14.8
卸売業	▲ 15.2	▲ 25.0	▲ 21.9	-6.7	▲ 28.2	-6.3
小売業	▲ 54.6	▲ 54.6	▲ 36.6	18.0	▲ 41.9	-5.3
サービス業	▲ 33.3	▲ 37.2	▲ 21.9	11.4	▲ 37.5	-15.6



2. 売上額・完成工事額

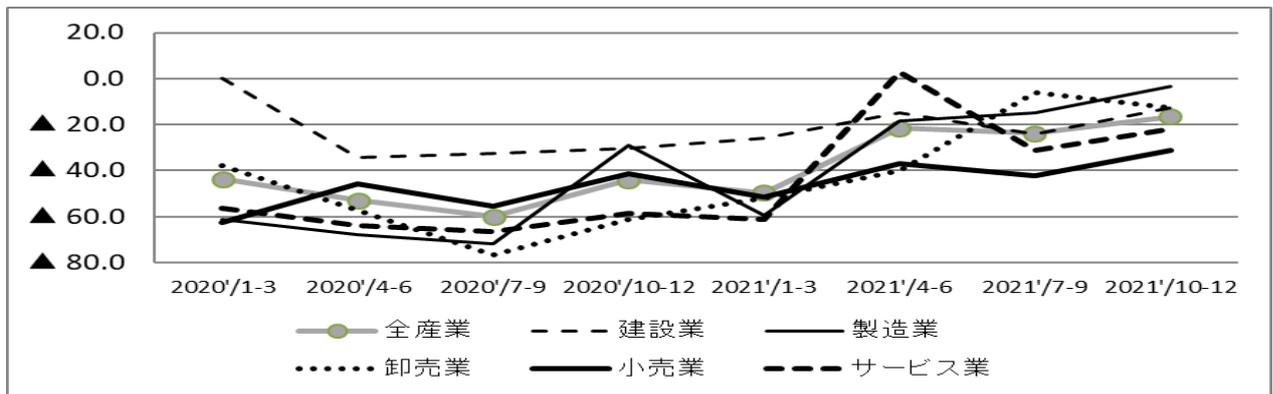
今期(10~12月)の売上額・完成工事額DI値は、全産業で▲16.5と前期比で改善した。

産業別では、建設業、製造業、小売業、サービス業が改善する一方、卸売業は悪化した。

来期の見通し(1~3月)は、全産業で▲24.8と今期比で悪化を見通している。

産業別では、すべての業種で悪化を見通している。

	前期(7-9月)		(C)	今期(10-12月)		
	(A)	来期見通 (10~12月) (B)		前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 23.9	▲ 25.9	▲ 16.5	7.4	▲ 24.8	-8.3
建設業	▲ 24.3	▲ 16.2	▲ 12.5	11.8	▲ 15.6	-3.1
製造業	▲ 14.7	0.0	▲ 3.4	11.3	▲ 6.9	-3.5
卸売業	▲ 6.1	▲ 27.3	▲ 12.5	-6.4	▲ 28.1	-15.6
小売業	▲ 42.4	▲ 53.2	▲ 31.3	11.1	▲ 43.7	-12.4
サービス業	▲ 31.4	▲ 34.3	▲ 21.8	9.6	▲ 28.1	-6.3



3. 資金繰り

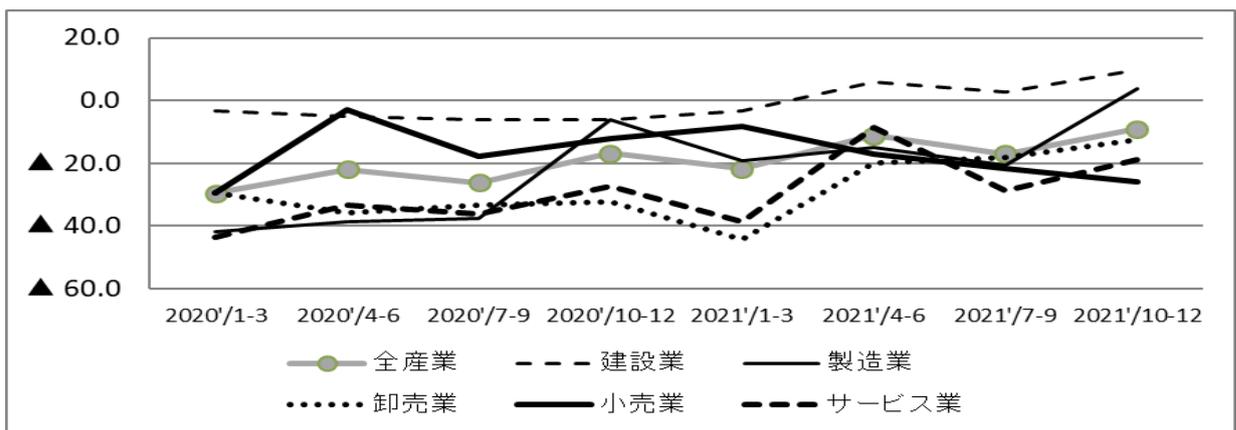
今期(10~12月)の資金繰りDI値は、全産業で▲9.1と前期比で改善した。

産業別では、建設業がプラス幅を拡大、製造業、サービス業、卸売業が改善した。特に製造業はプラス24.3ポイントと大幅に改善し、前期のマイナスからプラスに転じた。一方、小売業は悪化した。

来期の見通し(1~3月)は、全産業で▲13.7と今期比で悪化を見通している。

産業別では、建設業、製造業がプラス幅を縮小し、製造業が今期のプラスからマイナスへ転じる見通しをしている。卸売業、サービス業が悪化を見通す一方、小売業は改善を見通している。

	前期(7-9月)		(C)	今期(10-12月)		
	(A)	来期見通(10~12月)(B)		前期比(C)-(A)	来期見通(1~3月)(D)	今期比(D)-(C)
全産業	▲17.0	▲23.4	▲9.1	7.9	▲13.7	-4.6
建設業	2.7	▲10.8	9.4	6.7	▲3.1	-12.5
製造業	▲20.6	▲14.7	3.7	24.3	▲3.7	-7.4
卸売業	▲18.1	▲24.2	▲12.5	5.6	▲18.8	-6.3
小売業	▲21.8	▲34.4	▲25.8	-4.0	▲19.4	6.4
サービス業	▲28.6	▲34.2	▲18.7	9.9	▲21.9	-3.2



4. 受注残(未消化工事高)

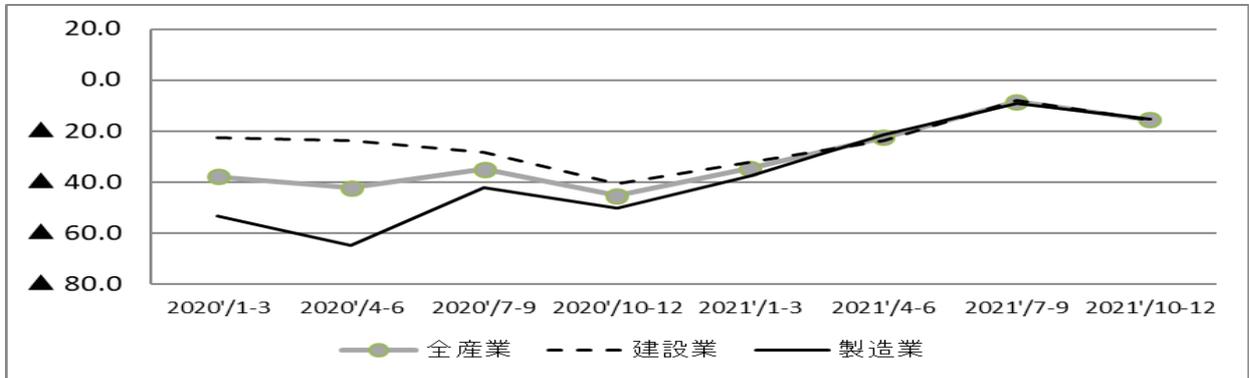
今期(10~12月)の受注残DI値は、全産業で▲15.6と前期比で悪化した。

産業別では、建設業、製造業ともに悪化した。

来期の見通し(1~3月)は、全産業で▲20.7と今期比で悪化を見通している。

産業別では、建設業で横ばい、製造業で悪化を見通している。

	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月)	
		(B)			(D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 8.5	▲ 18.6	▲ 15.6	-7.1	▲ 20.7	-5.1
建設業	▲ 8.1	▲ 21.6	▲ 15.6	-7.5	▲ 15.6	0.0
製造業	▲ 9.1	▲ 15.2	▲ 15.4	-6.3	▲ 26.9	-11.5



5. 採算(経常利益)

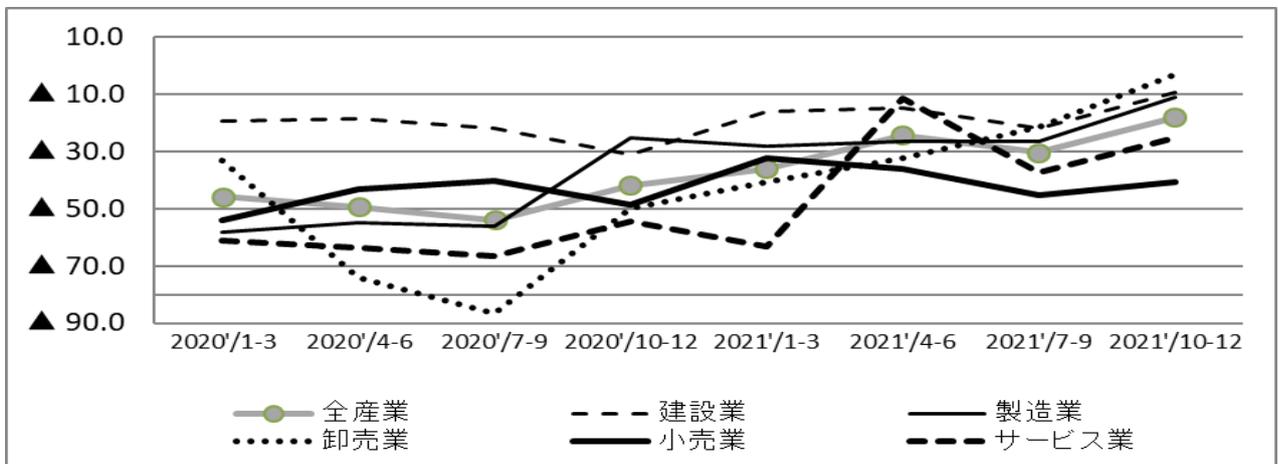
今期(10~12月)の採算DI値は、全産業で▲18.0と前期比で改善した。

産業別では、すべての業種で改善した。特に卸売業はプラス18.1ポイントと大幅に改善した。

来期の見通し(1~3月)は、全産業で▲30.9と今期比で悪化を見通している。

産業別では、サービス業が横ばい、他の4業種は悪化を見通している。特に製造業、卸売業はそれぞれマイナス33.4ポイント、マイナス28.1ポイントの大幅な悪化を見通している。

	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月)	
		(B)			(D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 30.2	▲ 32.6	▲ 18.0	12.2	▲ 30.9	-12.9
建設業	▲ 21.6	▲ 32.4	▲ 9.3	12.3	▲ 12.5	-3.2
製造業	▲ 26.5	▲ 14.7	▲ 11.1	15.4	▲ 44.5	-33.4
卸売業	▲ 21.2	▲ 30.3	▲ 3.1	18.1	▲ 31.2	-28.1
小売業	▲ 45.4	▲ 45.5	▲ 40.7	4.7	▲ 43.7	-3.0
サービス業	▲ 37.1	▲ 40.0	▲ 25.0	12.1	▲ 25.0	0.0



6. 従業員(含む臨時)

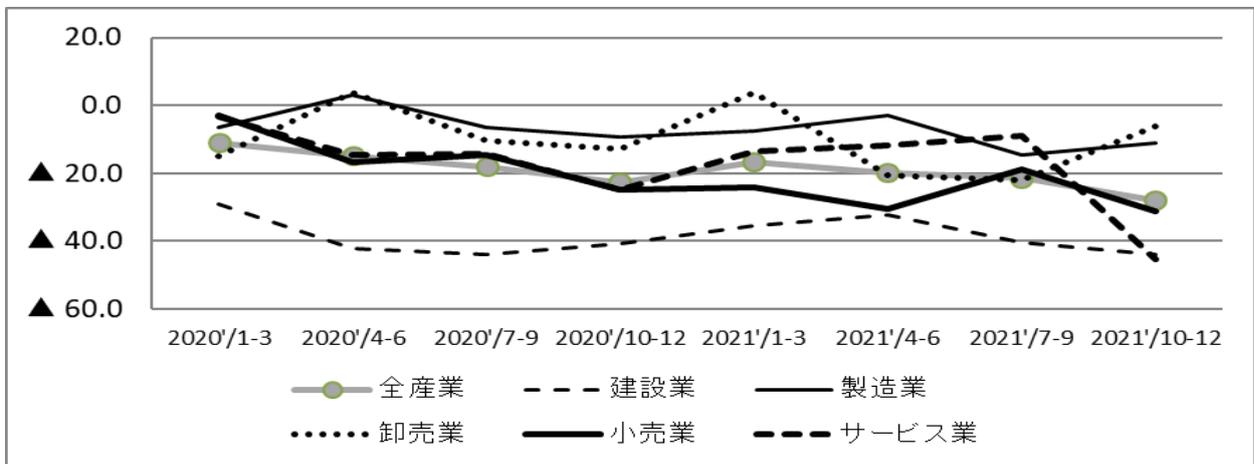
今期(10~12月)の従業員DI値は、全産業で▲28.0と前期比で不足感を拡大した。

産業別では、サービス業、小売業、建設業が不足感を拡大した。特にサービス業はマイナス36.1ポイントと大幅に不足感を拡大した。一方、卸売業、製造業は不足感を縮小した。

来期の見通し(1~3月)は、全産業で今期に引き続き▲28.0と横ばいを見通している。

産業別では、小売業、製造業が不足感の縮小を見通す一方、卸売業、サービス業、建設業で不足感の拡大を見通している。

	前期(7-9月)		(C)	今期(10-12月)		
	(A)	来期見通 (10~12月) (B)		前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 21.5	▲ 22.9	▲ 28.0	-6.5	▲ 28.0	0.0
建設業	▲ 40.5	▲ 40.5	▲ 43.8	-3.3	▲ 46.9	-3.1
製造業	▲ 14.7	▲ 17.6	▲ 11.1	3.6	▲ 7.4	3.7
卸売業	▲ 21.9	▲ 18.2	▲ 6.3	15.6	▲ 12.5	-6.2
小売業	▲ 18.7	▲ 18.7	▲ 31.3	-12.6	▲ 21.8	9.5
サービス業	▲ 9.1	▲ 17.7	▲ 45.2	-36.1	▲ 48.4	-3.2



II. 産業別DI値

1. 建設業

今期(10~12月)のDI値は、業況が▲3.1と前期比で改善した。

項目別では、資金繰りがプラス幅を拡大、採算、完成工事額が改善する一方、受注残は悪化した。従業員は不足感を拡大した。

企業からは、「天候不順による工期の延長が少なく、完成工事につながった」【一般電気工事】とのコメントがある一方、「コロナの影響による資材不足と年末からの雪が続いていることによる除雪作業のため、工事が遅れている」【一般土木工事】とのコメントがあった。

来期の見通し(1~3月)は、業況が▲25.0と今期比でマイナス21.9ポイントの大幅な悪化を見通している。

項目別では、受注残が横ばい、資金繰り、採算、完成工事額で悪化を見通している。従業員は不足感の拡大を見通している。

企業からは、「コロナによる資材不足等により工事完成が遅れている。雪解けが早まれば良いが、土木工事では年度末に多忙になると思う」【一般土木建築工事】とのコメントがあった。

	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比	来期見通(1~3月)	
		(B)		(C)-(A)	(D)	今期比 (D)-(C)
業況	▲ 13.5	▲ 28.5	▲ 3.1	10.4	▲ 25.0	-21.9
完成工事額	▲ 24.3	▲ 16.2	▲ 12.5	11.8	▲ 15.6	-3.1
資金繰り	2.7	▲ 10.8	9.4	6.7	▲ 3.1	-12.5
受注残	▲ 8.1	▲ 21.6	▲ 15.6	-7.5	▲ 15.6	0.0
採算(経常利益)	▲ 21.6	▲ 32.4	▲ 9.3	12.3	▲ 12.5	-3.2
従業員(含む臨時)	▲ 40.5	▲ 40.5	▲ 43.8	-3.3	▲ 46.9	-3.1

2. 製造業

今期(10~12月)のDI値は、業況が▲14.8と前期比で改善した。

項目別では、資金繰り、採算、受注残、売上額が改善した。特に資金繰りは、プラス24.3ポイントと大幅に改善し、前期のマイナスからプラスに転じた。一方、受注残は悪化した。従業員は不足感を縮小した。

企業からは、「コロナの新規感染者の減少に伴い、料飲店で首都圏での酒提供制限がなくなり、気温低下もあいまって、需要の持ち直しが見られるが、少人数の一時会だけが主流。家庭用は業務用が回復した分低調。輸出は二けた増」【清酒】とのコメントがある一方、「受注量、受注金額は前年同期並だが原材料をはじめ、ほとんどの資材が値上がりしている分、利益は減少した」【金属製品】とのコメントがあった。

来期の見通し(1~3月)は、業況が▲29.6と今期比で悪化を見通している。

項目別では、すべての項目で悪化を見通している。特に採算はマイナス33.4ポイントの大幅な悪化を見通している。従業員は不足感の縮小を見通している。

企業からは「業務用市場は、オミクロン株への警戒で大きな期待はできない。円安、原油価格高騰、人手不足により資材価格の値上げの影響が本格化する」【清酒】とのコメントがある一方、「コロナ終息とイベントの再開が売上増加、業況好転に必須条件である」【印刷】とのコメントがあった。

	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比	来期見通(1~3月)	
		(B)		(C)-(A)	(D)	今期比 (D)-(C)
業況	▲ 20.6	▲ 3.0	▲ 14.8	5.8	▲ 29.6	-14.8
売上額	▲ 14.7	0.0	▲ 3.4	11.3	▲ 6.9	-3.5
資金繰り	▲ 20.6	▲ 14.7	3.7	24.3	▲ 3.7	-7.4
受注残	▲ 9.1	▲ 15.2	▲ 15.4	-6.3	▲ 26.9	-11.5
採算(経常利益)	▲ 26.5	▲ 14.7	▲ 11.1	15.4	▲ 44.5	-33.4
従業員(含む臨時)	▲ 14.7	▲ 17.6	▲ 11.1	3.6	▲ 7.4	3.7

3. 卸売業

今期(10~12月)のDI値は、業況が▲21.9と前期比で悪化した。

項目別では、売上額が悪化する一方、採算、資金繰りが改善した。特に採算はプラス18.1ポイントと大幅に改善した。従業員は大幅に不足感を縮小した。

企業からは、「地元の人口減による販売パイの減少に加え、商品状況が地球温暖化等の影響で良くなかった」【青果・水産物】とのコメントがある一方、「売上は変わらず、資材、原料価格の高騰で利益率が減少」【農業土木資材】とのコメントがあった。

来期の見通し(1~3月)は、業況が▲28.2と今期比で悪化を見通している。

項目別では、すべての項目で悪化を見通している。特に採算、売上額はそれぞれマイナス28.1ポイント、マイナス15.6ポイントの大幅な悪化を見通している。従業員は不足感の拡大を見通している。

企業からは、「資材の値上げによる利益の減少を見込む。部品供給不足による製品確保が難しい」【電気工事材料】、「原材料高で採算が悪化するのとは不可避」【鶏卵】とのコメントがあった。

	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比	来期見通(1~3月)	
		(B)		(C)-(A)	(D)	今期比 (D)-(C)
業況	▲ 15.2	▲ 25.0	▲ 21.9	-6.7	▲ 28.2	-6.3
売上額	▲ 6.1	▲ 27.3	▲ 12.5	-6.4	▲ 28.1	-15.6
資金繰り	▲ 18.1	▲ 24.2	▲ 12.5	5.6	▲ 18.8	-6.3
採算(経常利益)	▲ 21.2	▲ 30.3	▲ 3.1	18.1	▲ 31.2	-28.1
従業員(含む臨時)	▲ 21.9	▲ 18.2	▲ 6.3	15.6	▲ 12.5	-6.2

4. 小売業

今期(10~12月)のDI値は、業況が▲36.6と前期比で大幅に改善した。

項目別では、売上額、採算が改善する一方、資金繰りは悪化した。従業員は不足感を拡大した。

企業からは、「秋田市発行のプレミアム商品券並びに県の補助金で発行された商店会によるプレミアム商品券の恩恵を受けた」【酒類】とのコメントがある一方、「新型コロナ感染拡大により、自動車向け部品生産が回復傾向にあるものの、世界的半導体不足から国内の生産ラインの正常化には至らず、自動車(商品)の出荷台数が制限され、自動車(商品)の販売台数が前年同期に比べ約3割減少した」【自動車】とのコメントがあった。

来期の見通し(1~3月)は、業況が▲41.9と今期比で悪化を見通している。

項目別では、売上額、採算が悪化を見通す一方、資金繰りで改善を見通している。従業員は不足感の縮小を見通している。

企業からは、「半導体不足に加え、新型コロナ(オミクロン株)の感染拡大の影響により、物流などへの影響が懸念される中、メーカーの生産ラインが正常化したとしてもこれまでの生産ライン停止による減産の影響は、当面続くことが予想されることから前年同期を大きく下回ることを見込む」【自動車】とのコメントがある一方、「売上は新しいターゲット層へのアプローチにより、若干ではあるが増加を見込む。仕入費用の高騰に対し、価値を高め、いかに売価に転換できるのかがカギとなる」【生花】とのコメントがあった。

	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比	来期見通(1~3月)	
		(B)		(C)-(A)	(D)	今期比 (D)-(C)
業況	▲ 54.6	▲ 54.6	▲ 36.6	18.0	▲ 41.9	-5.3
売上額	▲ 42.4	▲ 53.2	▲ 31.3	11.1	▲ 43.7	-12.4
資金繰り	▲ 21.8	▲ 34.4	▲ 25.8	-4.0	▲ 19.4	6.4
採算(経常利益)	▲ 45.4	▲ 45.5	▲ 40.7	4.7	▲ 43.7	-3.0
従業員(含む臨時)	▲ 18.7	▲ 18.7	▲ 31.3	-12.6	▲ 21.8	9.5

5. サービス業

今期(10~12月)のDI値は、業況が▲21.9と前期比で改善した。

項目別では、すべての項目で改善した。従業員はマイナス36.1ポイントと大幅に不足感を拡大した。

企業からは、「亜鉛鉱、コンテナ貨物の取り扱い数量が増加したため、前年同期比約17%増加」【運輸】とのコメントがある一方、「コロナによる影響で発注件数が減っている」【広告代理店】とのコメントがあった。

来期の見通し(1~3月)は、業況は▲37.5と今期比で大幅な悪化を見通している。

項目別では、採算が横ばい、売上額、資金繰りで悪化を見通している。従業員は不足感の拡大を見通している。

企業からは「コロナの拡大でますます厳しい」【食堂】とのコメントがある一方、「単価が高い仕事にシフトチェンジしていくので、売上上昇すると考えている」【保険代理業】とのコメントがあった。

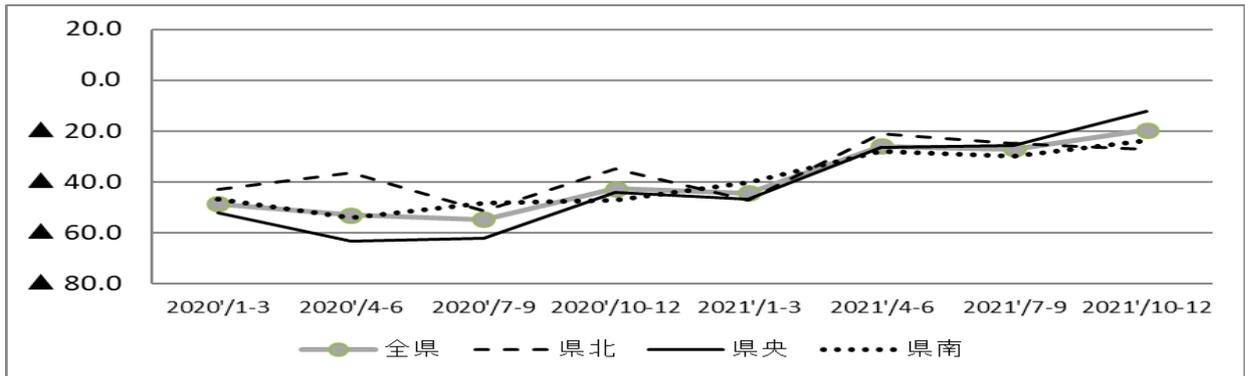
	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月)	
		(B)			(D)	今期比 (D)-(C)
業況	▲ 33.3	▲ 37.2	▲ 21.9	11.4	▲ 37.5	-15.6
売上額	▲ 31.4	▲ 34.3	▲ 21.8	9.6	▲ 28.1	-6.3
資金繰り	▲ 28.6	▲ 34.2	▲ 18.7	9.9	▲ 21.9	-3.2
採算(経常利益)	▲ 37.1	▲ 40.0	▲ 25.0	12.1	▲ 25.0	0.0
従業員(含む臨時)	▲ 9.1	▲ 17.7	▲ 45.2	-36.1	▲ 48.4	-3.2

Ⅲ. 地域別DI値

1. 業況

今期(10~12月)のDI値は、前期比で県央、県南が改善、県北はわずかながら悪化した。来期の見通し(1~3月)は、今期比で全域が悪化を見通している。

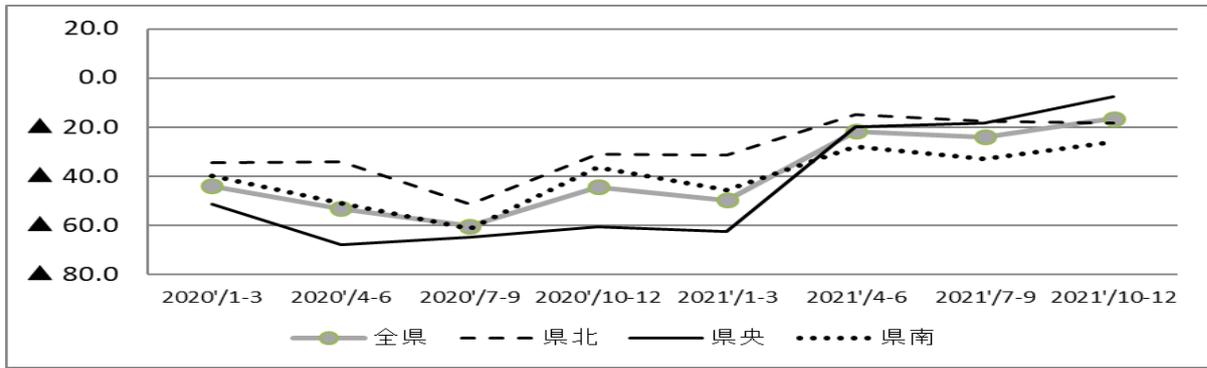
	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月)	
		(B)			(D)	今期比 (D)-(C)
全 県	▲ 27.0	▲ 29.8	▲ 19.6	7.4	▲ 32.5	-12.9
県 北	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 27.3	-2.3	▲ 45.5	-18.2
県 央	▲ 25.4	▲ 25.8	▲ 12.3	13.1	▲ 26.1	-13.8
県 南	▲ 29.8	▲ 33.3	▲ 23.7	6.1	▲ 32.2	-8.5



2. 売上額・完成工事額

今期(10~12月)のDI値は、前期比で県央、県南で改善、県北はわずかながら悪化した。来期見通し(1~3月)は、今期比で全域が悪化を見通している。

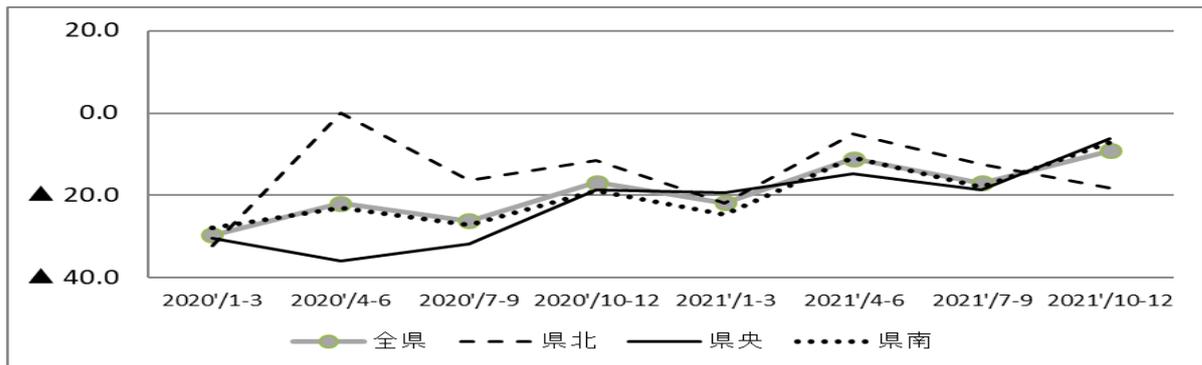
	前期(7-9月)		今期(10-12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月)	
		(B)			(D)	今期比 (D)-(C)
全 県	▲ 23.9	▲ 25.9	▲ 16.5	7.4	▲ 24.8	-8.3
県 北	▲ 17.5	▲ 25.7	▲ 18.2	-0.7	▲ 33.4	-15.2
県 央	▲ 18.4	▲ 20.3	▲ 7.6	10.8	▲ 10.6	-3.0
県 南	▲ 32.8	▲ 31.4	▲ 25.9	6.9	▲ 36.2	-10.3



3. 資金繰り

今期(10~12月)のDI値は、前期比で県央、県南が改善、県北は悪化した。
来期見通し(1~3月)は、県北が横ばい、県央、県南は悪化を見通している。

	前期(7-9月)		(C)	今期(10-12月)		
	(A)	来期見通(10~12月) (B)		前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全 県	▲ 17.0	▲ 23.4	▲ 9.1	7.9	▲ 13.7	-4.6
県 北	▲ 12.5	▲ 20.0	▲ 18.2	-5.7	▲ 18.2	0.0
県 央	▲ 18.7	▲ 25.0	▲ 6.2	12.5	▲ 15.4	-9.2
県 南	▲ 17.9	▲ 23.9	▲ 7.2	10.7	▲ 8.9	-1.7

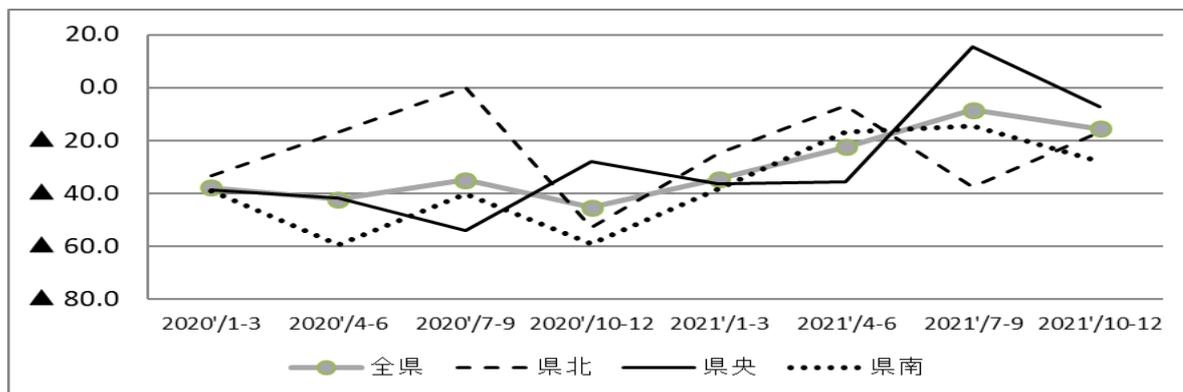


4. 受注残(未消化工事高)

今期(10~12月)のDI値は、前期比で県央、県南が悪化した。特に県央はマイナス 22.6 ポイントの大幅な悪化となった。一方、県北はプラス 20.0 ポイントの大幅な改善となった。

来期見通し(1~3月)は、今期比で県南がほぼ横ばい、県北、県央が悪化を見通している。

	前期(7-9月)		(C)	今期(10-12月)		
	(A)	来期見通(10~12月) (B)		前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全 県	▲ 8.5	▲ 18.6	▲ 15.6	-7.1	▲ 20.7	-5.1
県 北	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 16.7	20.8	▲ 25.0	-8.3
県 央	15.4	7.7	▲ 7.2	-22.6	▲ 14.3	-7.1
県 南	▲ 14.3	▲ 32.2	▲ 27.7	-13.4	▲ 27.8	-0.1

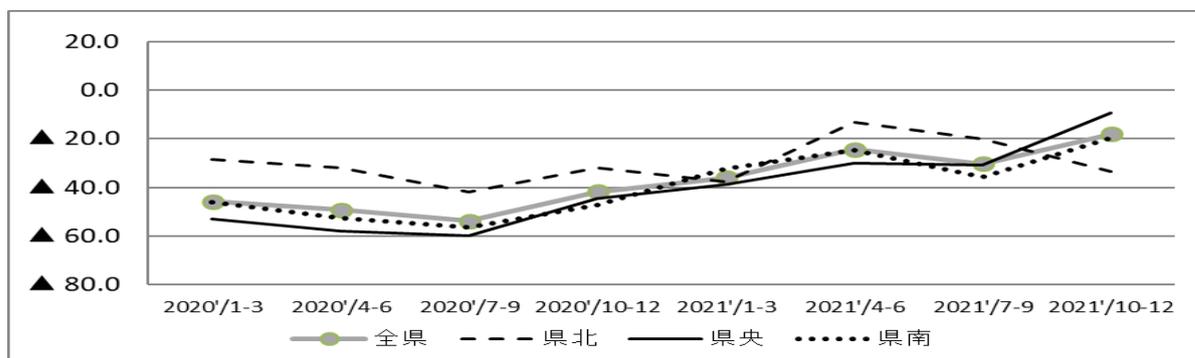


5. 採算(経常利益)

今期(10~12月)のDI値は、前期比で県央、県南が改善した。特に県央はプラス21.7ポイントと大幅に改善した。一方、県北は悪化した

来期見通し(1~3月)は、今期比で県央、県南が悪化を見通す一方、県北はわずかながら改善を見通している。

	前期(7-9月)		(C)	今期(10-12月)		
	(A)	来期見通(10~12月) (B)		前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全 県	▲ 30.2	▲ 32.6	▲ 18.0	12.2	▲ 30.9	-12.9
県 北	▲ 20.0	▲ 27.5	▲ 33.3	-13.3	▲ 30.3	3.0
県 央	▲ 30.8	▲ 33.8	▲ 9.1	21.7	▲ 27.3	-18.2
県 南	▲ 35.8	▲ 34.3	▲ 19.6	16.2	▲ 35.7	-16.1

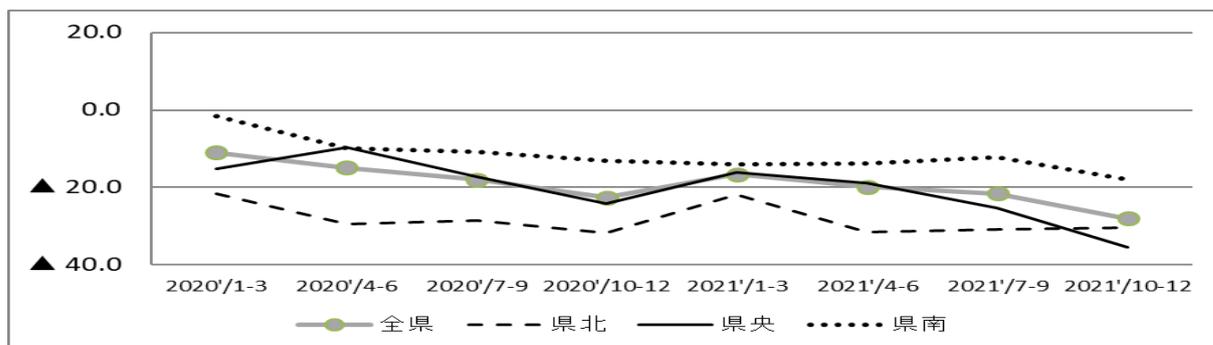


6. 従業員(含む臨時)

今期(10~12月)のDI値は、前期比で県央、県南で不足感を拡大する一方、県北はわずかながら不足感を縮小した。

来期見通し(1~3月)は、今期比で県央、県北で不足感の縮小を見通す一方、県南は不足感の拡大を見通している。

	前期(7-9月)		(C)	今期(10-12月)		
	(A)	来期見通(10~12月) (B)		前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全 県	▲ 21.5	▲ 22.9	▲ 28.0	-6.5	▲ 28.0	0.0
県 北	▲ 30.7	▲ 30.0	▲ 30.3	0.4	▲ 27.3	3.0
県 央	▲ 25.4	▲ 25.0	▲ 35.4	-10.0	▲ 30.8	4.6
県 南	▲ 12.1	▲ 16.7	▲ 17.9	-5.8	▲ 25.0	-7.1



IV. 産業別設備投資

全産業における今期(10~12月)の設備投資については、「実施した」とする企業は57件で、前期比で3件増加した。

産業別では、「実施した」とする中で最も多かったのは、建設業(17件)、次いでサービス業(14件)、製造業(10件)の順となっている。

全産業で、設備投資内容で最も多かったのは、「車両・運搬具」(23件)、次いで「建物・工場・店舗」「OA機器」(ともに12件)、「付帯施設」(11件)の順となっている。

来期(1~3月)の計画では、全産業で「計画している」としたのは46件で、今期比で11件減少している。

産業別では、「計画している」とした中で最も多かったのは、サービス業(14件)、次いで、製造業(12件)、建設業(8件)の順となっている。

全産業で、設備投資内容で最も多かったのは、「車両・運搬具」(17件)、「機械・設備・倉庫」(11件)、「建物・工場・店舗」「OA機器」(ともに9件)の順となっている。

設備投資状況

(件数)

	前期(7~9月)				今期(10~12月)						
	実施した (A)	実施しない	来期の計画(10-12月)		実施した (C)	実施しない	前期比 (C-A)	来期の計画(1-3月)			
			計画している (B)	計画していない				計画している (D)	計画していない	今期比 (D-C)	
全産業	54	118	36	136	57	100	3	46	111	▲11	
建設業	16	21	8	29	17	15	1	8	24	▲9	
製造業	12	22	8	26	10	19	▲2	12	17	2	
卸売業	7	26	5	28	9	23	2	6	26	▲3	
小売業	8	25	4	29	7	25	▲1	6	26	▲1	
サービス業	11	24	11	24	14	18	3	14	18	0	

設備内容(複数回答)

(件数)

	全産業		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	今期	来期	今期	来期								
①土地	2	3	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1
②建物・工場・店舗	12	9	2	1	3	2	0	0	2	0	5	6
③機械・設備・倉庫	10	11	2	2	3	7	3	0	1	0	1	2
④車両・運搬具	23	17	8	2	3	2	4	3	3	4	5	6
⑤付帯施設	11	6	2	1	5	1	1	2	2	1	1	1
⑥OA機器	12	9	5	3	2	2	3	1	0	1	2	2
⑦福利厚生施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧その他	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
合計	72	55	20	10	16	15	12	6	8	6	16	18

V. 地域別設備投資

今期(10～12月)の設備投資について、「実施した」企業は、前期比で県南が横ばい、県央が増加、県北で減少した。

設備投資で最も多いのは、全域で「車両・運搬具」県北(6件)、県央(9件)、県南(8件)となった。

来期(1～3月)の設備投資について、「計画している」企業は、今期比で全域が減少を見通している。

「計画している」企業の設備内容で最も多かったのは、県北で「車両・運搬具」(3件)、県央で「車両・運搬具」(9件)、県南で「建物・工場・店舗」「機械・設備・倉庫」(ともに6件)となっている。

設備投資状況

(件数)

	前期(7～9月)				今期(10～12月)						
	実施した (A)	実施しない	来期の計画(10-12月)		実施した (C)	実施しない	前期比 (C-A)	来期の計画(1-3月)			
			計画している (B)	計画していない				計画している (D)	計画していない	今期比 (D-C)	
全体	54	118	36	136	57	100	3	46	111	▲ 11	
県北	14	26	7	33	12	21	▲ 2	6	27	▲ 6	
県央	22	43	18	47	27	39	5	23	43	▲ 4	
県南	18	49	11	56	18	40	0	17	41	▲ 1	

設備内容(複数回答)

(件数)

	全県		県北		県央		県南	
	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期
①土地	2	3	1	0	1	1	1	2
②建物・工場・店舗	12	9	4	1	4	3	5	6
③機械・設備・倉庫	10	11	3	2	6	3	2	6
④車両・運搬具	23	17	6	3	9	9	8	5
⑤付帯施設	11	6	1	0	8	6	2	0
⑥OA機器	12	9	2	2	8	5	2	2
⑦福利厚生施設	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧その他	2	0	0	0	1	0	1	0
合計	72	55	17	8	37	27	21	21

VI. 経営上の問題点

産業別における「経営上の問題点」は、建設業は「材料価格の上昇」、製造業は「原材料価格の上昇」、卸売業は「仕入価格の上昇」、小売業は「需要の停滞」、サービス業は「従業員の確保難」を第1位に挙げている。

2位以下の項目では、建設業が「従業員の確保難」、製造業が「需要の停滞」「人件費の増加」「熟練技術者の確保難」、卸売業が「需要の停滞」「販売単価の低下・上昇難」、小売業が「仕入単価の上昇」、サービス業が「利用者ニーズの変化への対応」「材料等仕入単価の上昇」「燃料代の負担増加」を問題点として挙げており、需要の停滞、人材不足、人件費の増加、原材料価格の上昇、仕入単価の上昇、利用者ニーズの変化への対応、販売単価の低下・上昇難等が経営課題となっていることがうかがえる。

	1位		2位		3位	
建設業	材料価格の上昇		従業員の確保難		従業員の確保難	
	33.3%	10件	20.0%	6件	24.0%	6件
製造業	原材料価格の上昇		需要の停滞 人件費の増加 熟練技術者の確保難		原材料価格の上昇	
	27.6%	8件	14.3%	4件	14.8%	4件
卸売業	仕入単価の上昇		需要の停滞 仕入単価の上昇		販売単価の低下・上昇難	
	35.5%	11件	19.4%	6件	27.6%	8件
小売業	需要の停滞		仕入単価の上昇		需要の停滞	
	20.0%	6件	20.0%	6件	24.0%	6件
サービス業	従業員の確保難		利用者ニーズの変化への対応 従業員の確保難		材料等仕入単価の上昇 燃料代の負担増加	
	27.7%	8件	14.8%	4件	20.7%	6件

※ %は1位、2位、3位それぞれの回答数(=100%)の割合を示したものの。

参考:1~3位を累計した場合

	1位		2位		3位	
建設業	従業員の確保難		材料価格の上昇		熟練技術者の確保難 官公需要の停滞	
	17.4%	15件	16.3%	14件	12.8%	11件
製造業	原材料価格の上昇		従業員の確保難		需要の停滞	
	17.9%	15件	11.9%	10件	10.7%	9件
卸売業	仕入単価の上昇		需要の停滞		販売単価の低下・上昇難	
	24.2%	22件	18.7%	17件	16.5%	15件
小売業	需要の停滞		仕入単価の上昇		販売単価の低下・上昇難	
	17.6%	15件	15.3%	13件	11.8%	10件
サービス業	従業員の確保難		利用者ニーズの変化への対応 材料等仕入単価の上昇		需要の停滞	
	16.3%	13件	12.5%	10件	11.3%	9件

※ %は1~3位までの総回答数(=100%)の割合を示したものの。

【付帯調査】

◎SDGsに対する取組状況に関する調査

Ⅶ. 取組状況について

- ・取組状況について聞いたところ、回答のあった152社中、③「内容は把握しているが、まだ取り組んでいない」が74社48.7%、①「既に取り組んでいる」が30社19.7%、②「取組を検討している」が26社17.1%の順となった。

選 択 肢	社数	構成比 (%)
① 既に取り組んでいる	30	19.7
② 取組を検討している	26	17.1
③内容は把握しているが、まだ取り組んでいない	74	48.7
④内容を把握していない	19	12.5
⑤初めて聞いた・分からない	3	2.0
合 計	152	100.0

Ⅷ. 具体的な取組事項(複数回答)

- ・質問Ⅶで①「既に取り組んでいる」、②「取組を検討している」と回答のあった56社に具体的な取組事項について聞いたところ、①「自社の本業を通じた社会問題の解決」が30件53.6%、次いで⑤「秋田県SDGsパートナーへの登録」、⑥「SDGsについて理解するための情報収集・研修等」がともに16社28.6%、②「自社の経営計画・事業計画に反映」が15件26.8%の順となった。

選 択 肢	件数	構成比 (%)
① 自社の本業を通じた社会問題の解決	30	53.6
② 自社の経営計画・事業計画に反映	15	26.8
③ 自社のブランディングやPR等に活用	12	21.4
④ 社員の人材育成に活用	11	19.6
⑤ 秋田県SDGsパートナーへの登録	16	28.6
⑥ SDGsについて理解するための情報収集・研修等	16	28.6
⑦ その他	1	1.8

○その他のコメント

・卸売業

- ・グループ全体での一員として社会課題を解決【乳製品】

IX. 期待する効果について(複数回答)

- ・質問Ⅶで①「既に取り組んでいる」、②「取組を検討している」と回答のあった56社に期待する効果について聞いたところ、①「企業価値の向上」が45件80.4%、次いで②「従業員のモチベーション向上」が23件41.1%、③「企業PRの促進(採用活動等)」の22件39.3%の順となった。

選 択 肢	件数	構成比 (%)
① 企業価値の向上	45	80.4
② 従業員のモチベーション向上	23	41.1
③ 企業PRの促進(採用活動等)	22	39.3
④ 売上・利益の増加	9	16.1
⑤ 自社以外との連携	6	10.7
⑥ その他	0	0.0

X. 取組にあたっての課題について(複数回答)

- ・質問Ⅶで③「内容は把握しているが、まだ取り組んでいない」、④「内容を把握していない」、⑤「初めて聞いた・分からない」と回答のあった96社に取組にあたっての課題について聞いたところ、②「具体的な目標の策定や評価がわからない」が40件41.7%、①「社内の認知度・理解度がまだ低い」が28件29.2%、⑤「より優先すべき課題がある」が26件27.1%の順となった。

選 択 肢	件数	構成比 (%)
①社内の認知度・理解度がまだ低い	28	29.2
②具体的な目標の策定や評価がわからない	40	41.7
③資金的余裕がない	18	18.8
④時間的余裕がない	20	20.8
⑤より優先すべき課題がある	26	27.1
⑥行政の関与や情報提供が少ない	11	11.5
⑦その他	0	0.0
⑧特になし	24	14.6

XI. 取組にあたって期待する支援について(複数回答)

- ・回答のあった152社に取組にあたって期待する支援について聞いたところ、①「補助金等財政面で支援」が65件42.8%、③「事例集や手引の提供」が64件42.1%、②「セミナー等の開催」の39件25.7%の順となった。

選 択 肢	件数	構成比 (%)
①補助金等財政面で支援	65	42.8
②セミナー等の開催	39	25.7
③事例集や手引の提供	64	42.1
④表彰制度の創設	5	3.3
⑤企業間での情報交換	28	18.4
⑥専門家によるコンサルティング	17	11.2
⑦その他	0	0.0
⑦ 特になし	42	27.6

Ⅺ. 総括表

秋田県内中小企業景況調査
全産業別景気判断比較表(DI値)
(第3四半期:2021年10月~12月)

(▲マイナス)

	業況						売上額・完成工事額						資金繰り					
	前期(7~9月)		今期(10~12月)				前期(7~9月)		今期(10~12月)				前期(7~9月)		今期(10~12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)
		(B)						(B)						(B)				
全産業	▲27.0	▲29.8	▲19.6	7.4	▲32.5	-12.9	▲23.9	▲25.9	▲16.5	7.4	▲24.8	-8.3	▲17.0	▲23.4	▲9.1	7.9	▲13.7	-4.6
建設業	▲13.5	▲28.5	▲3.1	10.4	▲25.0	-21.9	▲24.3	▲16.2	▲12.5	11.8	▲15.6	-3.1	2.7	▲10.8	9.4	6.7	▲3.1	-12.5
製造業	▲20.6	▲3.0	▲14.8	5.8	▲29.6	-14.8	▲14.7	0.0	▲3.4	11.3	▲6.9	-3.5	▲20.6	▲14.7	3.7	24.3	▲3.7	-7.4
卸売業	▲15.2	▲25.0	▲21.9	-6.7	▲28.2	-6.3	▲6.1	▲27.3	▲12.5	-6.4	▲28.1	-15.6	▲18.1	▲24.2	▲12.5	5.6	▲18.8	-6.3
小売業	▲54.6	▲54.6	▲36.6	18.0	▲41.9	-5.3	▲42.4	▲53.2	▲31.3	11.1	▲43.7	-12.4	▲21.8	▲34.4	▲25.8	-4.0	▲19.4	6.4
サービス業	▲33.3	▲37.2	▲21.9	11.4	▲37.5	-15.6	▲31.4	▲34.3	▲21.8	9.6	▲28.1	-6.3	▲28.6	▲34.2	▲18.7	9.9	▲21.9	-3.2

	受注残(未消化工事高)						採算(経常利益)						従業員(含む臨時)					
	前期(7~9月)		今期(10~12月)				前期(7~9月)		今期(10~12月)				前期(7~9月)		今期(10~12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)
		(B)						(B)						(B)				
全産業	▲8.5	▲18.6	▲15.6	-7.1	▲20.7	-5.1	▲30.2	▲32.6	▲18.0	12.2	▲30.9	-12.9	▲21.5	▲22.9	▲28.0	-6.5	▲28.0	0.0
建設業	▲8.1	▲21.6	▲15.6	-7.5	▲15.6	0.0	▲21.6	▲32.4	▲9.3	12.3	▲12.5	-3.2	▲40.5	▲40.5	▲43.8	-3.3	▲46.9	-3.1
製造業	▲9.1	▲15.2	▲15.4	-6.3	▲26.9	-11.5	▲26.5	▲14.7	▲11.1	15.4	▲44.5	-33.4	▲14.7	▲17.6	▲11.1	3.6	▲7.4	3.7
卸売業	—	—	—	—	—	—	▲21.2	▲30.3	▲3.1	18.1	▲31.2	-28.1	▲21.9	▲18.2	▲6.3	15.6	▲12.5	-6.2
小売業	—	—	—	—	—	—	▲45.4	▲45.5	▲40.7	4.7	▲43.7	-3.0	▲18.7	▲18.7	▲31.3	-12.6	▲21.8	9.5
サービス業	—	—	—	—	—	—	▲37.1	▲40.0	▲25.0	12.1	▲25.0	0.0	▲9.1	▲17.7	▲45.2	-36.1	▲48.4	-3.2

※ DI値:「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。
:従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果(業種別比較表)

(第3四半期:2021年10月~12月)

1. 今期の状況

業種	項目	業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全産業	実数	19	85	49	42	47	68	15	110	29	10	29	19	26	75	54	11	89	54
	%	12.4	55.6	32.0	26.8	29.9	43.3	9.7	71.4	18.8	17.2	50.0	32.8	16.8	48.4	34.8	7.1	57.8	35.1
	DI	▲ 19.6			▲ 16.5			▲ 9.1			▲ 15.6			▲ 18.0			▲ 28.0		
建設業	実数	3	25	4	7	14	11	4	27	1	6	15	11	2	25	5	1	16	15
	%	9.4	78.1	12.5	21.9	43.8	34.4	12.5	84.4	3.1	18.8	46.9	34.4	6.3	78.1	15.6	3.1	50.0	46.9
	DI	▲ 3.1			▲ 12.5			9.4			▲ 15.6			▲ 9.3			▲ 43.8		
製造業	実数	4	15	8	10	8	11	6	16	5	4	14	8	7	10	10	5	14	8
	%	14.8	55.6	29.6	34.5	27.6	37.9	22.2	59.3	18.5	15.4	53.8	30.8	25.9	37.0	37.0	18.5	51.9	29.6
	DI	▲ 14.8			▲ 3.4			3.7			▲ 15.4			▲ 11.1			▲ 11.1		
卸売業	実数	3	19	10	7	14	11	2	24	6				7	17	8	4	22	6
	%	9.4	59.4	31.3	21.9	43.8	34.4	6.3	75.0	18.8				21.9	53.1	25.0	12.5	68.8	18.8
	DI	▲ 21.9			▲ 12.5			▲ 12.5						▲ 3.1			▲ 6.3		
小売業	実数	5	9	16	8	6	18	0	23	8				5	9	18	1	20	11
	%	16.7	30.0	53.3	25.0	18.8	56.3	0.0	74.2	25.8				15.6	28.1	56.3	3.1	62.5	34.4
	DI	▲ 36.6			▲ 31.3			▲ 25.8						▲ 40.7			▲ 31.3		
サービス業	実数	4	17	11	10	5	17	3	20	9				5	14	13	0	17	14
	%	12.5	53.1	34.4	31.3	15.6	53.1	9.4	62.5	28.1				15.6	43.8	40.6	0.0	54.8	45.2
	DI	▲ 21.9			▲ 21.8			▲ 18.7						▲ 25.0			▲ 45.2		

※ DI値:「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

:従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果(業種別比較表)

(第3四半期:2021年10月~12月)

2. 来期の見通し

業種	項目	業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全産業	実数	9	86	59	26	66	65	11	111	32	5	36	17	15	77	63	9	93	52
	%	5.8	55.8	38.3	16.6	42.0	41.4	7.1	72.1	20.8	8.6	62.1	29.3	9.7	49.7	40.6	5.8	60.4	33.8
	DI	▲ 32.5			▲ 24.8			▲ 13.7			▲ 20.7			▲ 30.9			▲ 28.0		
建設業	実数	1	22	9	6	15	11	3	25	4	3	21	8	3	22	7	0	17	15
	%	3.1	68.8	28.1	18.8	46.9	34.4	9.4	78.1	12.5	9.4	65.6	25.0	9.4	68.8	21.9	0.0	53.1	46.9
	DI	▲ 25.0			▲ 15.6			▲ 3.1			▲ 15.6			▲ 12.5			▲ 46.9		
製造業	実数	3	13	11	7	13	9	4	18	5	2	15	9	2	11	14	5	15	7
	%	11.1	48.1	40.7	24.1	44.8	31.0	14.8	66.7	18.5	7.7	57.7	34.6	7.4	40.7	51.9	18.5	55.6	25.9
	DI	▲ 29.6			▲ 6.9			▲ 3.7			▲ 26.9			▲ 44.5			▲ 7.4		
卸売業	実数	1	21	10	4	15	13	0	26	6				3	16	13	2	24	6
	%	3.1	65.6	31.3	12.5	46.9	40.6	0.0	81.3	18.8				9.4	50.0	40.6	6.3	75.0	18.8
	DI	▲ 28.2			▲ 28.1			▲ 18.8						▲ 31.2			▲ 12.5		
小売業	実数	2	14	15	3	12	17	1	23	7				3	12	17	2	21	9
	%	6.5	45.2	48.4	9.4	37.5	53.1	3.2	74.2	22.6				9.4	37.5	53.1	6.3	65.6	28.1
	DI	▲ 41.9			▲ 43.7			▲ 19.4						▲ 43.7			▲ 21.8		
サービス業	実数	2	16	14	6	11	15	3	19	10				4	16	12	0	16	15
	%	6.3	50.0	43.8	18.8	34.4	46.9	9.4	59.4	31.3				12.5	50.0	37.5	0.0	51.6	48.4
	DI	▲ 37.5			▲ 28.1			▲ 21.9						▲ 25.0			▲ 48.4		

※ DI値:「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

:従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果（地域別比較表）

（第3四半期：2021年10月～12月）

1. 今期の状況

業種	項目	業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全県	実数	19	85	49	42	47	68	15	110	29	10	29	19	26	75	54	11	89	54
	%	12.4	55.6	32.0	26.8	29.9	43.3	9.7	71.4	18.8	17.2	50.0	32.8	16.8	48.4	34.8	7.1	57.8	35.1
	DI	▲ 19.6			▲ 16.5			▲ 9.1			▲ 15.6			▲ 18.0			▲ 28.0		
秋田	実数	10	37	18	21	19	26	9	43	13	6	14	8	14	32	20	3	36	26
	%	15.4	56.9	27.7	31.8	28.8	39.4	13.8	66.2	20.0	21.4	50.0	28.6	21.2	48.5	30.3	4.6	55.4	40.0
	DI	▲ 12.3			▲ 7.6			▲ 6.2			▲ 7.2			▲ 9.1			▲ 35.4		
大館	実数	1	11	6	6	5	7	0	14	4	0	4	2	2	7	9	0	9	9
	%	5.6	61.1	33.3	33.3	27.8	38.9	0.0	77.8	22.2	0.0	66.7	33.3	11.1	38.9	50.0	0.0	50.0	50.0
	DI	▲ 27.7			▲ 5.6			▲ 22.2			▲ 33.3			▲ 38.9			▲ 50.0		
能代	実数	0	11	4	1	8	6	0	13	2	1	4	1	1	9	5	2	10	3
	%	0.0	73.3	26.7	6.7	53.3	40.0	0.0	86.7	13.3	16.7	66.7	16.7	6.7	60.0	33.3	13.3	66.7	20.0
	DI	▲ 26.7			▲ 33.3			▲ 13.3			0.0			▲ 26.6			▲ 6.7		
大曲	実数	3	4	8	2	6	7	1	11	3	1	1	2	3	4	8	1	8	6
	%	20.0	26.7	53.3	13.3	40.0	46.7	6.7	73.3	20.0	25.0	25.0	50.0	20.0	26.7	53.3	6.7	53.3	40.0
	DI	▲ 33.3			▲ 33.4			▲ 13.3			▲ 25.0			▲ 33.3			▲ 33.3		
横手	実数	3	13	5	8	4	9	2	15	4	1	4	2	3	11	7	4	10	7
	%	14.3	61.9	23.8	38.1	19.0	42.9	9.5	71.4	19.0	14.3	57.1	28.6	14.3	52.4	33.3	19.0	47.6	33.3
	DI	▲ 9.5			▲ 4.8			▲ 9.5			▲ 14.3			▲ 19.0			▲ 14.3		
湯沢	実数	2	9	8	4	5	13	3	14	3	1	2	4	3	12	5	1	16	3
	%	10.5	47.4	42.1	18.2	22.7	59.1	15.0	70.0	15.0	14.3	28.6	57.1	15.0	60.0	25.0	5.0	80.0	15.0
	DI	▲ 31.6			▲ 40.9			0.0			▲ 42.8			▲ 10.0			▲ 10.0		

※ DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果（地域別比較表）

（第3四半期：2021年10月～12月）

2. 来期の見通し

業種	項目	業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全県	実数	9	86	59	26	66	65	11	111	32	5	36	17	15	77	63	9	93	52
	%	5.8	55.8	38.3	16.6	42.0	41.4	7.1	72.1	20.8	8.6	62.1	29.3	9.7	49.7	40.6	5.8	60.4	33.8
	DI	▲ 32.5			▲ 24.8			▲ 13.7			▲ 20.7			▲ 30.9			▲ 28.0		
秋田	実数	4	40	21	14	31	21	5	45	15	2	20	6	6	36	24	3	39	23
	%	6.2	61.5	32.3	21.2	47.0	31.8	7.7	69.2	23.1	7.1	71.4	21.4	9.1	54.5	36.4	4.6	60.0	35.4
	DI	▲ 26.1			▲ 10.6			▲ 15.4			▲ 14.3			▲ 27.3			▲ 30.8		
大館	実数	0	7	11	2	7	9	0	15	3	0	3	3	2	7	9	1	8	9
	%	0.0	38.9	61.1	11.1	38.9	50.0	0.0	83.3	16.7	0.0	50.0	50.0	11.1	38.9	50.0	5.6	44.4	50.0
	DI	▲ 61.1			▲ 38.9			▲ 16.7			▲ 50.0			▲ 38.9			▲ 44.4		
能代	実数	0	11	4	2	7	6	0	12	3	1	4	1	1	10	4	2	10	3
	%	0.0	73.3	26.7	13.3	46.7	40.0	0.0	80.0	20.0	16.7	66.7	16.7	6.7	66.7	26.7	13.3	66.7	20.0
	DI	▲ 26.7			▲ 26.7			▲ 20.0			0.0			▲ 20.0			▲ 6.7		
大曲	実数	2	5	8	2	4	9	1	10	4	1	2	1	3	3	9	0	9	6
	%	13.3	33.3	53.3	13.3	26.7	60.0	6.7	66.7	26.7	25.0	50.0	25.0	20.0	20.0	60.0	0.0	60.0	40.0
	DI	▲ 40.0			▲ 46.7			▲ 20.0			0.0			▲ 40.0			▲ 40.0		
横手	実数	1	11	9	4	7	10	4	14	3	1	3	3	1	10	10	2	12	7
	%	4.8	52.4	42.9	19.0	33.3	47.6	19.0	66.7	14.3	14.3	42.9	42.9	4.8	47.6	47.6	9.5	57.1	33.3
	DI	▲ 38.1			▲ 28.6			4.7			▲ 28.6			▲ 42.8			▲ 23.8		
湯沢	実数	2	12	6	2	10	10	1	15	4	0	4	3	2	11	7	1	15	4
	%	10.0	60.0	30.0	9.1	45.5	45.5	5.0	75.0	20.0	0.0	57.1	42.9	10.0	55.0	35.0	5.0	75.0	20.0
	DI	▲ 20.0			▲ 36.4			▲ 15.0			▲ 42.9			▲ 25.0			▲ 15.0		

※ DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

参 考

県内景況調査に対する各企業のコメント

I 今期の特徴 (2021年10~12月)

1 建設業	
・コロナ禍なのか、民間工事が減少しているので多くは期待できない【一般土木建築工事】	県央
・ コロナの影響による資材不足と年末からの雪が続いていることによる除雪作業のため、工事が遅れている【一般土木建築工事】	
・ 予定より早く工事が完成したので経費、人件費を抑えることができ、利益が出た【土木工事】	
・ 民間企業の設備投資による工事が増えている。採算は不変【塗装工事】	
・ 天候不順による工期の延長が少なく、完成工事につながった【一般電気工事業】	
・ 資材の値上がりによる採算悪化【一般建築】	県北
2 製造業	
・ コロナの新規感染者の減少に伴い、料飲店で首都圏での酒提供制限がなくなり、気温低下もあいまって需要の持ち直しが見られるが、少人数の一時会だけが主流。家庭用は業務用が回復した分低調、輸出は二けた増【清酒】	県央
・ 原材料高、資材用品高で収益性が悪化している【水産物製造・卸売】	
・ 採算ベースに戻すために売上は2割以上の増加が必要【印刷】	
・ 受注量、受注金額は前年同期並だが原材料をはじめ、ほとんどの資材が値上がりしている分、利益は減少した【金属製品】	
・ 鋼材を含む資材の高騰により売上は増加したが、利益率は低下した【金属製品】	県北
・ 家飲みの需要が増加した【清酒】	
3 卸売業	
・ 例年にないほど年末の売上が伸び悩んだ【食肉】	県央
・ 地元の人口減による販売パイの減少に加え、商品状況が地球温暖化等の影響で良くなかった【青果・水産物】	県北
・ まだまだコロナの影響がある【清涼飲料】	
・ 売上は変わらず、資材、原料価格の高騰で利益率が減少【農業土木資材】	県南
4 小売業	
・ 12月から少し売上は伸びてきている。年末に人の動きがあったことがプラスに働いた【婦人靴】	県央
・ 秋田市発行のプレミアム商品券並びに県の補助金で発行された商店会によるプレミアム商品券の恩恵を受けた【酒類】	
・ 新型コロナウイルス感染拡大により、自動車向け部品生産が回復傾向にあるものの、世界的半導体不足から国内の生産ラインの正常化には至らず、自動車(商品)の出荷台数が制限され、自動車(商品)の販売台数が前年同期に比べ約3割減少した【自動車】	
・ 受注が順調だった【自動車用品】	
・ 元に戻ることは難しい【自動車用品】	
・ 仕入費用の上昇に歯止めがかからない状況。自社努力にも限界を感じている【生花】	県北
・ 飲食店専門店のため、コロナでガタ落ち【酒類】	
・ 増収・減益【燃料】	県南
・ ある程度予想された通りの状況【金物】	
・ 売上減と経費削減【食料品】	

5 サービス業	
・経費増額により我々中小企業は大変苦しい【普通洗濯】	県央
・コロナ禍の影響はまだ少し受けつつも売上の増加が見られてきた【ビルメンテナンス】	
・売上は前年比で増加しているものの、新型コロナの影響が長期化し、採算は大幅赤字の状態が続いている【運輸】	
・亜鉛鉱、コンテナ貨物の取り扱い数量が増加したため、前年同期比約17%増加【運輸】	
・コロナが収束しないと好転しない【食堂】	県北
・コロナの影響により売上高減少【ホテル】	県南
・コロナ以外で予想外の顧客変化があり、売上減少した【保険代理業】	
・コロナによる影響で発注件数が減っている【広告代理店】	
・コロナ再悪化に伴い景況が悪化した【ホテル】	

II 来期の見通し(2022年1～3月)

1 建設業	
・期末工事が終わると公共工事に受注を求めるようになると思う【一般土木建築工事】	県央
・コロナによる資材不足等により工事完成が遅れている。雪どけが早まれば良いが、土木工事では年度末に多忙になると思う【一般土木建築工事】	
・コロナがまた出て来て困る【木造建築工事】	
・全体に工事量が少ないのではないかと。ジワリジワリとコロナの影響が出ているのではないかと【一般土木建築工事】	
・来期完成する工事は除雪しながらのため、はかどらず利益はあまり期待できない【土木工事】	
・今期と同様を見込む【塗装工事】	
・前年並を見込む【一般電気工事】	

2 製造業	
・業務用市場はオミクロン株への警戒で大きな期待はできない。円安、原油価格高騰、人手不足により資材価格の値上げの影響が本格化する【清酒】	県央
・売上額増加の見込み【清酒】	
・コロナ終息とイベントの再開が売上増加、業況好転に必須条件である【印刷】	
・資材、人件費の値上がりが見込まれるため、採算悪化を見込む【消火器具】	
・取引先への価格交渉を進め、適正な価格での取引を進めたい【金属製品】	
・今期と同様の見込み【金属製品】	
・今期の反動で売上減少を見込む【清酒】	県北
・原材料の高騰を見込む【製材】	県南

3 卸売業	
・オミクロン株の動向で売上が左右されると思われる【食肉】	県央
・スキー場の営業(売店のお菓子)に期待する【雑貨】	
・コロナによる小売の不振も一段落し、今後は販売量及び販路拡大を目指したい【青果・水産物】	県北
・原材料高で採算が悪化するのとは不可避【鶏卵】	
・コロナ第6波の影響で売上が激減すると見込む【清涼飲料】	
・資材の値上げによる利益の減少を見込む。部品供給不足による製品確保が難しい【電気工事材料】	県南
・利益率の改善が見込めない【農業土木資材】	

4 小売業	
・年末年始は人の動きがあり、売上の回復が見られていた。しかし、コロナ感染者が増加しつつあり、また厳しい状況になることが予測される【婦人靴】	県央
・例年並と思われる【酒類】	
・半導体不足に加え、新型コロナ(オミクロン株)の感染拡大の影響により、物流などへの影響が懸念される中、メーカーの生産ラインが正常化したとしても、これまでの生産ライン停止による減産の影響は当面続くことが予想されることから、前年同期を大きく下回ることを見込む【自動車】	
・大雪により受注が増加する見込である【自動車部品】	
・固定費は変動なしのため、さらに悪化の見通し【自動車部品】	
・コロナによる悪影響が続いている。回復は期待できないと思う【生花】	
・売上は新しいターゲット層へのアプローチにより、若干ではあるが増加を見込む。仕入費用の高騰に対し、価値を高め、いかに売価に転換できるのかがカギとなる【生花】	県北
・コロナのため飲食店街は人が一人も見えない。商売60年で初めて【酒類】	県南
・増収・減益を見込む【燃料】	
・現時点での予想は難しい【金物】	
・コロナの状況次第で大きく左右される【食料品】	
5 サービス業	
・今期と同様、厳しい状況が続く見通し【普通洗濯】	県央
・状況は変わらないものと見込む【運輸】	
・売上は増加していくと思うがまだまだ採算は取れない【ビルメンテナンス】	
・見通しがつかない【運輸】	
・オミクロン次第【日本料理】	
・コロナの拡大でますます厳しい【食堂】	県北
・コロナ(オミクロン株)の感染拡大により売上高減少を見込む【冠婚葬祭】	県南
・単価が高い仕事にシフトチェンジしていくので、売上上昇すると考えている【保険代理業】	
・昨年のコロナ禍よりも若干動きが見られるが、依然として厳しい【広告代理店】	